

## 東日本大震災における緊急排水対策について

3月11日に発生した地震津波により、太平洋沿岸が広域に冠水。

3月13日時点の湛水量は 約1億1,200万  $m^3$ 。

このうち、湛水面積、湛水深が大きく、自然排水が困難な箇所について重点的に排水作業を実施し、4月7日までに約2,800万 $m^3$ を排出。(25mプール×約78,000杯分)

4月7日時点の残りは 約1,500万  $m^3$ 、当初の約13%に縮小している。

このうち、約800万  $m^3$  については、水深50cm 以上であり、排水ポンプ車を集中投入し、4月末を目途に湛水を解消する。

残る700万 $m^3$ のうち 約560万  $m^3$  は、水深が50cm以下と浅く、小型の水中ポンプ等により機動的に排水することが効率的であり、原則、自治体・関係機関において対応することとする。

また、残る140万 $m^3$ については、海岸堤防等が大きな被害を受け、本格的な復旧が必要な箇所等であり、自治体や関係機関と連携して排水対策を実施する。

